

朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故第1回調査委員会 委員長記者会見要旨

平成15年9月1日
15:40～16:10

1 委員長会見要旨

一般論として、壊れた後からどう壊れたかを解き明かしていくことは非常に難しい。本日の現場視察、委員会における検討においても、原因や破壊の過程についてまだ何もわかっていない。

2 質疑

Q 原因解明と復旧の目途は。

A わかることとわからないことを区別して、わかることに関しては1ヶ月程度でおおよその様子を把握したい。落下しなかった部分に関しても1ヶ月程度でその安定性を判断したい。

Q 現場を見ての感想は。

A 普通で考えればまず壊れるようには思われぬ構造であると思った。今後、材料の強度だとか、設計思想、施工状況などを十分把握して、壊れるに至った過程を解明していきたい。

Q どこから壊れたか。

A 佐渡汽船側から崩れたであろうことは目撃談や県の方の話から間違いはないだろう。ただしその後、どう破壊が進んでいったかは不明である。駐車場に行く渡り廊下は、多分長いほうが壊れたことにより引っ張られた感じはする。

ただ、なぜ最初に佐渡汽船側が壊れたかはわからない。

Q どういうところを見て佐渡汽船側から崩れたと思うのか。

A 全体の変形の状況とわれわれの経験に照らし合わせて、そう考えた。また立体駐車場に行く渡り廊下については破壊が少ないことから引っ張られて柱から外れたと思う。

Q 当初、局長発表で、設計・監理・施工のいずれかに瑕疵があったのではとの話があったが、今日現場を見られた感想で、それぞれについてどう思うか。

A まず、設計がどういう思想でなされているか確認したい。施工が設計の思想を受けた手順でなされていたか確認したい。また、不具合がなかったか、その辺を確認しないと何も言えない。

Q 48mの部分が落下したことから素人考えでは設計に瑕疵があったのではと考えてしまうが、いかがか。

- A 通常、設計では長さに関して考慮されているはずであるが、細かな設計手順で、常識的に処理する部分がある。普通であれば問題ないが、状況によっては工夫が必要となる場合があり、その辺を少し調べる。
- Q 確認するという事は委員会で設計業者に委託するという事か。
- A 設計をした人から伺いたい。
- Q 直接か。
- A 委員が直接聞く。
- Q 次回開催は。
- A 9月6日。
- Q 現場の撤去はあとどれくらいか。
- A 今日現場を見て、これ以上見ることはないだろうから、早い時期にやっていただいて良いと考える。今日出席されなかった先生にも見ていただけるよう事務局に調整していただきたい。
- Q 特に保存すべき場所はないか。
- A 細かく切って破断面等の重要な部分は保存していただきたい。また強度試験用にも一部とっておいていただきたい。また写真はすべて撮っておいていただきたい。
- Q 5人の委員の役割分担は。
- A 今現在役割があるわけではないが、それぞれの専門が違うので異なった視点で、見ていただき、総合的に判断できる体制にしたい。
- Q 手直しの件は。
- A 施工業者にも施工手順を伺いたい。
- Q これから1ヶ月間に委員会は何回開く予定か。
- A 6日、13日は決定している。それ以降は必要に応じて聞く。
- Q 強度試験も1ヶ月以内に行われるのか。
- A 必要であればすぐに行く。
- Q 材料試験はどのようなものを対象とするのか。
- A ひとつは鋼材、コンクリート。
- Q すぐというのは1週間以内か。
- A 最低1週間くらいでできるのではないかと考えているが。
(局長) なるべく早くやりたい。
- Q ワイヤーが錆びていたところはなかったか。
- A なかった。
- Q 疲労破壊についてはどうか。
- A 2年程度で、しかも人が通る程度の荷重・回数では考えられない。
- Q 構造計算に問題はなかったか。
- A 建物は出来上がった状態で構造計算するのが普通である。よくある建物では、施工業者や設計業者の経験により適切な施工手順で施工が行われるはずであるが、あまり前例のない建物の場合、適切な施工手順で工事が行われない場合も考えられる。

(以上)